



AUE News

2012年9月1日

第 46 号

編集・発行
愛知教育大学広報部会
TEL 0566-26-2738
FAX 0566-26-2500



目次

● 行事予定(9月1-30日)

● トピックス

- ・ 教員免許状更新講習
- ・ 附属学校の安全対策に関する研修会
- ・ インターナショナルナイト
- ・ 先生のための「夏休み経済教室」
- ・ 普通救命(心肺蘇生法)講習会
- ・ 中野弘幸選手ロンドン五輪に出場
- ・ 管弦楽団第77回定期演奏会
- ・ 全国教育系大学弓道選手権大会
- ・ 全国教育大学ソフトテニス大会
- ・ 授業に役立つ金融経済セミナー
- ・ Cera-Mix Part III
- ・ JICA青年海外協力隊写真展

- ・ 高校生サイエンス・サマー・キャンプ
- ・ 小学校教員のための理科実験セミナー
- ・ 海外での教育実習の事前講習
- ・ インターンシップ生研修
- ・ リケジョ(理系女子)応援講座
- ・ 大学マネジメント研究会東海地区交流会
- ・ 公開講座「志水メソッドで算数・数学の授業が変わる」

● お知らせ・報告・投稿

- ・ 全日本大学女子駅伝対校選手権大会に23年ぶりの出場決定
- ・ AUEサマースクール
- ・ 愛知県陶磁資料館とパートナーシップ協定締結
- ・ 催しもの案内

行事予定(9/1-15)

- 5日(水) 役員部局長会議(10:00～ 学長室)
教務企画委員会(13:30～ 第二会議室)
学生支援委員会(13:30～ 第五会議室)
大学改革推進委員会(15:30～ 第五会議室)
- 10日(月) 教員人事委員会(10:00～ 第五会議室)
- 11日(火) 役員会(16:00～ 学長室)
- 12日(水) 教育創造開発機構委員会(9:30～ 大学会館中会議室)
代議員会(13:30～ 第五会議室)
教育研究評議会(代議員会終了後、第五会議室)
- 14日(金) 附属学校運営委員会(10:00～ 第三会議室)

トピックス

教員免許状更新講習(8/7-22)



本年度の教員免許状更新講習が8月7日(火)～22(水)に行われた。

同講習は、教職10、20、30年目に教員免許状を更新する際に義務づけられており、2009年の制度導入から今年で4年目。今年は70講習に延べ2622人の愛知県内を中心にした現職の小・中・高校の教員が参加した。

必須領域では「教育の最新事情」の講座名で、教職についての省察、子どもの変化、教育政策の動向、学校の内外

における連携協力などについてきめ細やかな内容の 10 講座を開講。21 日（火）は 98 人が参加し、生寫亜樹子講師（学校教育）の講義の後、「児童・生徒の価値観」についてのグループディスカッションでは、受講者が熱心に意見を述べ合った。選択領域は教科指導や生徒指導に関する 60 講習。ピアノによる歌の伴奏の技術習得や指導の際の留意点の確認、美術の表現構想教育の在り方や教材づくりの実技体験、学校と新聞社が協力しての NIE によるプロから学ぶ新聞づくりなど、多彩で専門的・実践的な講習が展開され、参加者から「すぐ授業に役立つ」「教えることに前向きになれる」などの感想が聞かれた。



附属学校の安全対策に関する研修会(8/8)

本年度の附属学校の安全対策に関する研修会が 8 月 8 日（水）午後 1 時から、本部棟第一会議室で開催され、7 附属学校園の校長、教員、PTA など約 120 人が参加した。

今回の研修会では、田原市立堀切小学校校長の糟谷幹生氏と文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課安全教育調査官の佐藤浩樹氏を講師に招き、糟谷氏には「学校と地域で取り組む地震津波対策」、佐藤氏には「東日本大震災を受けた今後の学校安全について」をテーマにそれぞれ講演をしていただいた。

研修会に先立ち、折出健二総務担当理事があいさつ、引き続き宮川秀俊附属学校部長による講師 2 人の紹介があった。糟谷氏は、昨年 4 月に着任した堀切小学校が、海に近く、東日本大震災時に発生した津波被害同様の状況が、過去に同地区で発生したことを知り、田原市や地元住民とともに避難マニュアルを迅速に作成され、そして実地訓練を具体化されている。また、佐藤氏は、昨年



3 月 11 日の東日本大震災時には、宮城県公立中学校の教頭を務められており、災害時には適切な対応をされ、その後、4 月に文部科学省の安全教育調査官として着任され、現在、学校現場での防災対策に尽力されている。

それぞれの講師の貴重な体験や災害時の留意点をプロジェクターによる活動映像をもとに講演していただき、また、講演後には参加者からの質問も多く出され、有意義な催しとなった。

（附属学校課課長 兵頭利和）

インターナショナルナイト(8/8)

日本人ボランティア学生による外国人留学生との交流イベント「インターナショナルナイト



2012『流しそうめん大会』」が 8 月 8 日（水）本学国際交流会館で開催された。日本の文化を紹介し、体験を通じて互いの交流を深めることを目的に毎年実施している。日本人ボランティア学生は、留学生との交流や学校生活支援などを目的に国際交流センターが募集するもので、今回の行事は本年度最初の開催。この日は猛暑の中、午前 10 時から作業を開始。留学生とボランティア学生が協力して竹を切り出し、半分に割って節を取り除くなど着々と準備を進め、4 本の孟宗竹を連結した全長約 15m の流しそうめん台が完成した。共同作業を通じてお互いの距離も縮まり、楽しそうな会話や笑い声があちこちから聞こえた。

夕方 5 時に開始、準備に参加できなかった留学生やボランテ

2012『流しそうめん大会』」が 8 月 8 日（水）本学国際交流会館で開催された。日本の文化を紹介し、体験を通じて互いの交流を深めることを目的に毎年実施している。日本人ボランティア学生は、留学生との交流や学校生活支援などを目的に国際交流センターが募集するもので、今回の行事は本年度最初の開催。

この日は猛暑の中、午前 10 時から作業を開始。留学生とボランティア学生が協力して竹



ィア学生，教職員も加わり総勢約 40 人で夏の風物詩である流しそうめん，スイカ割り，かき氷づくりなどを行った。留学生とボランティア学生はお互いに積極的に話しかける姿が見られ，このイベントを通じて友好の輪が広がる有意義な一日になったようだ。次回は，10 月頃に見学旅行を計画している。

(教育創造開発機構運営課 国際交流担当 鵜田真史)



先生のための夏休み経済教室(8/8,9)

8月8日(水)、9日(木)にウインクあいち(名古屋市)において「先生のための『夏休み経済教室』in名古屋」が開催されました。経済教育ネットワークと東京証券取引所の主催で、東京・大阪・名古屋・広島で学校の先生や教育関係者、教員になりたい学生等を対象に、学校の授業で経済を教えるために必要な経済学の知識を学ぶために行われています。名古屋での開催は4回目で、中学校対象の8日は81人、高等学校対象の9日は49人の参加があり、愛知教育大学の学生や卒業生の参加も多くありました。



初日の中学校対象の講座では、教科書を用いた授業の方法、体験型授業の実践事例の紹介や情報交換会を行いました。2日目の高校対象の講座では、高校教科書で経済を教える方法や経済に関する大学入試問題の解説が行われました。

少子高齢化が進むことで社会構造が大きく変化し、それに伴って国内市場も変化し、グローバル化した経済構造を理解することが求められており、学校教育で経済教育に積極的に取り組んでいくことが必要です。経済学者や学校で実践されている先生方からわかりやすく解説を受け、実践的な方法を知ることで経済分野での学校の授業に活かすことが期待されます。

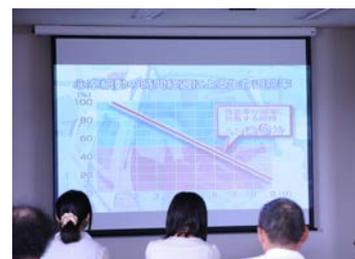


(地域社会システム准教授 水野英雄)

普通救命(心肺蘇生法)講習会(8/9)

本学保健環境センターによるAED(自動体外式除細動器)を用いた普通救命講習会が8月9日(木)に本部棟第五会議室で行われ、学生、教職員合わせて21人が参加した。

講師は刈谷消防署救急救命士。「日本では1日100人が心配停止で命を失う。AEDで命が助かった人もいる。心肺停止4分以上で脳に障害が起こることため、早く(AED)を使うほど効果が上がる」などとAEDの重要性を説明。DVDの映像でAED



により救命につながった事例も紹介された。その後、参加者は3班に分かれて、署員の指導でAEDの操作を体験した。

参加した学生は「AEDをあちこちで見かけるけれど、使い方が分からないので参加しました。緊急時に使えるようにしたい」と話し、操作の手順などを繰り返し確認していた。最後に、同署から救命講習会受講修了書が参加者に手渡され、この日の講習は終了した。

中野選手ロンドン五輪に出場(8/9)

ロンドン五輪 1600 米リレー (400×4) に出場した本学大学院 2 年，中野弘幸さんを応援する

パブリックビューイングが8月9日（木）、本部棟3階の第五会議室で開催された。陸上部の学生約60人をはじめ松田正久学長、岩崎公弥理事、清水秀己学系長、筒井清次郎教授、職員ら計約100人が中継されたテレビ画面を食い入るように見つめ、熱い声援を送った。学生らは開始30分以上前の午後7時頃から会場に詰めかけ、複数のテレビ、新聞の記者の質問に答えながら、「がんばれ」「行け、行け」と書かれたうちわを手



に「中野コール」解禁の時を待った。

松田学長が「たくさん集まっていたいただきありがとうございます。皆さんを代表して走る中野さんが決勝に残ってもらうことを期待して大学を挙げて応援したい」とあいさつ。日本代表チームは高瀬慧、金丸祐三、東佳弘、中野の4選手で、第一走者の高瀬選手がスタート。バトンをつなぎアンカーの中野さんが走り出すと同時に学生からは「頑張れ」「中野さ～ん！」とうちわをたたきながら大きな声援が飛んだ。中野さんは全力疾走、激しく追い上げたものの3分3秒86の6位と決勝進出はならなかった。世界の壁は厚かったとはいえ、それでも3位で決勝に進出したロシアの3分2秒01とは僅差。大きな拍手で観戦を終え、学生らは「結果は残念でしたが、先輩の素晴らしい走りを見せてもらいました」と感激していた。



中野さんは本学出身で五輪に出場した3人目の選手。陸上は初、国立大学学生としての出場も初めて。松田学長も小学校教師になる予定の中野さんを激励、「これを機にいい教育者を目指してほしい」と話していた。

管弦楽団第77回定期演奏会(8/11)

本学の管弦楽団が第77回定期演奏会を8月11日（土）午後6時30分から、名古屋市中区の愛知芸術劇場コンサートホールで開催した。

今回は、学部生、院生、OB、教員など80人余が参加。客員指揮者にはOBでもあり、現在はサラエボ・フィルハーモニー管弦楽団客演常任指揮者、東京音楽大学指揮科助手の米津俊広氏を迎えた。プログラムの最初は、ベートーベン作曲「エグモント序曲」。はつらつとした演奏を披露した。続いてJ. ブラームス「ハンガリー舞曲より抜粋 第1、3、5、6、10番」では、悲哀を帯びた旋律、愛らしくのどかなメロディー、ダイナミックで壮大なパフォーマンスで、観客を魅了した。



休憩をはさんで、同じくブラームス「交響曲第2番 二長調 Op.73」、アンコールにはヨハンシュトラウス2世「トリッチ・トラッチ・ポルカ」を演奏。半年間の練習の成果を堂々とした演奏で披露し、客席から大きな拍手が送られた。

全国教育系大学弓道選手権大会(8/11,12)

8月11日（土）、12日（日）の両日、本学弓道場で、全国教育系大学弓道選手権大会が開催された。

今回で28回目となる大会には、宮城教育、東京学芸、上越教育、大阪教育、京都教育、奈良教育、兵庫教育、鳴門教育、福岡教育と本学の全国10教育大学から約170人の選手が参加した。



1 日目には、開会式で松田学長が「真夏の中、体調に気を付けてがんばってください」とあいさつした後、男女の団体戦を行った。炎天下の空が午後から一変、急に雷を伴う大雨となり、雨量が増加したため、一時的に中断をしたが、当番大学である本学弓道部員は、雨の中、雨合羽を着ながら大会審判をやり遂げ、日程を無事に終えることができた。

2 日目には、うだるような暑さの中、男女の個人戦及び団体戦の決勝を行った。28m先の的に向かって放された矢は、思うように刺さらず、苦戦している選手も多かった。また、応援は、垣根越しに大声で繰り広げられた。2 日間の熱戦の結果、男子は鳴門教育大学、女子は上越教育大学が優勝した。昨年、男女共に団体優勝を成し遂げた本学の今回の成績は、男女共に表彰外。ただ女子個人の部で、2 年生小木曾里紗さんが優勝をして、最後に盛り上げてくれた。



参加した学生は、大会を通じて、お互いの技を競い、学び、語りあうことで、全国の教育系大学の親睦を深め、さらなる研鑽を誓っていた。
(学生支援課副課長 吉田宏)

全国教育大学ソフトテニス大会(8/13)



8月13日(月)から3日間、日進市の愛知県口論議運動公園第二庭球場において、全国教育大学ソフトテニス大会が開催された。

今回で55回目となる大会には、宮城教育、東京学芸、奈良教育、京都教育、兵庫教育、大阪教育、福岡教育と本学の全国8教育大学から約130人の選手が参加した。

2日目が雨天中止となり、個人選手権は中止となったが、大学対抗戦では、炎天下の中、各選手は白球を追い、また、応援団は応援合戦を繰り広げた。2日間の熱戦の結果、男子は本学、女子は大阪教育大学が優勝した。本学女子については、残念ながら表彰外だった。

2日目が雨天中止となり、個人選手権は中止となったが、大学対抗戦では、炎天下の中、各選手は白球を

参加した学生は、日頃の練習成果を確認するとともに、国立大学で学ぶ教育系の学生として交歓し、将来の教師としてのネットワークの中での友情を深めていた。

(学生支援課課長 須賀達也)



授業に役立つ金融経済セミナー(8/16,17)



8月16日(木)、17日(金)にウインクあいち(名古屋市)において「授業に役立つ金融経済セミナー」が開催されました。「授業に役立つ金融経済セミナー」は日本証券業協会の主催で東京・大阪・名古屋はじめ全国9カ所で開催され、学校の先生や教育関係者等を対象に、学校の授業で金融や経済を教えるために必要な知識を学ぶために行っています。

1両日ともそれぞれ約100人の参加があり、本学の関係者や卒業生の参加もありました。お盆の時期にも関わらず多くの先生方が参加され、金融経済教育への関心の高さがうかがえました。



セミナーでは、アナリストや大学教授、実業家による講演で日本や世界の経済の現状分析や将

来への展望が示されました。また、株式会社を作る体験型教材による学習や中部電力のメガソーラーたけとよ、と証券会社の店頭の見学を行いました。（地域社会システム准教授 水野英雄）

Cera-Mix PartⅢ (8/19-25)

本学造形文化コース陶芸専攻の卒業生有志による展覧会「Cera-Mix PartⅢ-造形の可能性-」が三重県四日市市の目黒陶芸館別館で8月19日（日）～25日（土）に開催された。

同展は2年ぶり、3回目。今回はOB・OGと院生15人が新作を中心に発表。卒業後、陶芸に関する仕事や教員などをしながら、土と向き合い、やきものの造形を通して自分を見つめた作品は、明治3年に建てられ、県重要文化財指定されている旧家の日本家屋を会場に、それぞれの個性を放って見る人を楽しませた。

出品者でOGの服部真紀子さんは「卒業して全国に散らばっていますが、こういう機会が久々に会い、作品を見ることができます。ここはすてきなギャラリーで、同じ作品でも見

え方が違います。こんな機会があり、ありがたい」、院生の武村和紀さんも「毎回見に来てくれる人もいて、愛教大を応援してくれる人に進化したところを見てもらえたら」と話した。

19日には特別講演会「陶のバイオモルフィズム-その有機的抽象表現-」が岐阜県現代陶芸美術館副館長の渡部誠一氏を講師に迎えて行われ、出品者や陶芸関係者など30人余が参加。表現としての陶芸について有機的形態造形の問題と現況について話し合われた。



JICA 青年海外協力隊写真展 (8/21-10/11)



8月21日（火）～10月11日（木）（休館日を除く）に附属図書館アイ♥スペースにおいて展示企画・JICA（国際協力機構）青年海外協力隊写真展「みんなで作ろう！持続可能な世界」（主催：愛知教育大学、公益社団法人 青年海外協力協会 中部支部、協力：JICA）を開催しています。

JICAの事業概要およびボランティア事業の一つである青年海外協力隊の活動などを紹介するために、協力隊員の活動写真や世界の教科書（タイ、ジンバブエ、チュニジア、エクアドル、ポーランド）、世界の楽器（ベトナム、ブラジル、タイ）などの展示。資源や環境などの制約が厳しくなる中で、持続可能な国際社会を形成することが求められています。国際理解教育やESD（Education for Sustainable Development、持続可能な開発のための教育）の観点から、世界の多様な国々とそこで暮らす人々の生活を知り、持続可能な新しい世界の形成について考える機会を提供することを目的としています。

青年海外協力隊には、100人を超える愛知教育大学のOB・



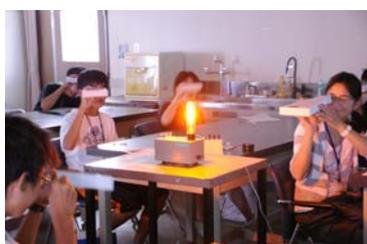
OG が参加しています。また、配属先に身分を残したまま参加する「現職参加制度」や派遣期間選択制度（訓練期間と派遣期間の合計で2年間）もあります。ぜひ多くの方にご覧いただき、青年海外協力隊へのご理解とご参加を期待しております。

（公益社団法人 青年海外協力協会中部支部 支部長 石井範子）

高校生サイエンス・サマー・キャンプ(8/21,22)

高校生に大学レベルの実験・観察を通して自然科学を学ぶ楽しさを実感してもらおうという「高校生サイエンス・サマー・キャンプ2012」が8月21日（火）22日（水）、自然科学棟などで開催された。

本学の科学・ものづくり教育推進センターが主催し、7回目。物理、科学、生物学、地学、天文学の講義・実験・観察を体験すると同時に、教員や学生との交流を通じて大学での研究や大学生活について知ることができる1泊2日のキャンプ。今年は愛知県内と石川県、静岡県からの参加を含めて高校1～3年まで26人が参加した。アシスタントとして学生15人も加わり、2日間高校生のサポートにあたった。



21日は開講式とガイダンスに続き、物理学「構造と光のスペクトル」、地学「地層と化石から探るジオの世界」、天文学「天体望遠鏡の使い方と星の色

の観察」の各講座、22日は化学「医薬品（アスピリン）の合成と分子構成の決定」、生物学「プロトプラストの単離と観察」の各講座が担当教員により実施された。

石川県から参加した高校生は「将来は理科の教員になりたい。いろいろな教育大学を見ているところで、7月のオープンキャンパスにこられなかったのが、このキャンプに応募。高校ではできない実験や野外観察ができて楽しかった」と満足そうだった。



小学校教員のための理科実験セミナー(8/22,23)

東海地区の現役の小学校教員を対象にした「理科実験セミナー」が8月22日（水）23日（木）、自然科学棟で開催された。

日本理科教育振興協会が主催し、今年が2回目。愛知県、三重県から35人が参加。冒頭、同協会の大久保昇会長が「指導要領の改正で観察実験が増えています。セミナーで学んだものを学校に持ち帰って生かしてください」などとあいさつした。

22日は生命（生物）分野「顕微鏡の取り扱いと植物の観察方法の基礎」、エネルギー（物理）分野「新学習指導要領『電気の利用』単元」、23日は粒子（化学）

分野「化学薬品の実験器具の安全な取り扱い方」、地球（地学）分野「新学習指導要領『月と太陽』単元」の4講座。生命分野のセミナー参加者は「大学時代は、なかなか理科実験をする機会がなかったので今回のセミナーで苦手な分野の指導法を確認し、よりよい授業ができるよう役立てたい」と話し、顕微鏡を前に操作の仕方を熱心に学んでいた。



海外での教育実習の事前講習(8/22)

今年度初めて実施されるオーストラリアでの教育実習を前にした事前講習会が8月22日（水）に学内で行われた。

本学が海外での教育実習を実施するのは初めて。小学校から高校までの英語教育を充実させる事業の一環として、オーストラリアの小中学校、高校で、教育実習を行う。参加するのは、1年から4年までの計21人。教員採用試験を受ける予定で、TOEIC700点以上などの条件で公募し、面接などで選ばれた。費用は、国際的な人材育成を目指す文部科学省が負担する。



派遣期間は8月24日から約3週間で、メルボルン、ブリズベンの両市でホームステイをしながら、小学校などで日本語授業を担当したり、他の授業のアシスタントを務める。実習先は、アンソニー・ライアン准教授（英語教育）がオーストラリアで教員をしていた人脈を生かして整え、学生は14校

に派遣される。

学生たちは5月ごろから4回の事前講習を受け、この日が最後の講習。日本文化を紹介するパワーポイントの仕上げをした。参加する4年の学生は「教員採用試験を終えたばかり。自分の英語がどこまで通じるか心配もありますが、頑張りたい」と抱負を語った。ライアン教授は「自国の文化をより深く知る機会にもなる。日本の教育実習は期間が短いので、密度を高める一助になれば。成功させて次回につなげたい」と抱負を語った。



インターンシップ生研修(8/22-31)

本学の2012年度インターンシップが8月22日(水)～31日(金)に実施され、初日には開講式が第五会議室で行われた。大学、大学院、短大に通う学生計17人(女性12人、男性5人)



の研修生に対し、白石薫二事務局長から「大学事務は夢のある仕事。その夢は自分自身でを見つけること。そして、マナー化しやすい職場に、皆さんの若い元気な力を吹き込んでほしい。分からないことは恥ずかしいことではなく、何でも聞くこと。職員は、皆さんに良い研修をしてもらおうと計画している。研修を通して関心を持っていただけたら、本学で働くことも視野に入れてほしい」とのあいさつ

があった。続いて丸山祥弘人事労務課副課長から大学概要の説明があり、鏡山典子人事労務課長が大学事務の基礎知識の講義を行った。午後からは中原道文法人企画部長、三宅育夫教育研究支援部長、山本良夫学生支援部長、加藤昌財務企画副課長(経理調達室長)がそれぞれの業務内容を説明した。研修生は、人事労務課職員の案内で本部等、福利施設、附属図書館などを順次見学して回った後、各配属先に分かれ、自己紹介などをして早速研修を始めた。



28日(火)には、本学若手職員やインターンシップ生同士の交流を深めるため、「若手職員との意見交換会」が行われた。最終日の31日には、それぞれ業務体験を振り返っての感想を発表。その後の閉講式では、中原法人企画部長から研修生一人ひとりに修了証書が授与され、8日間の日程を終了した。

(人事労務課係長 原田一三)

リケジョ(理系女子)応援講座(8/25)

女子中学生を対象にした「リケジョ(理系女子)応援講座」が8月25日(土)、自然科学棟で行われた。刈谷市が男女共同参画事業の一貫として主催。ものづくりが盛んな同市では、中学生に理系分野の楽しさを知ってもらおうと、今年初めて企画。市内の女子中学生8人が参加し、



実験助手は本学の理系女子学生が務めた。

中学生たちは用意された白衣をまとい、日野和之准教授の指導で、化学実験「ナノテクと錬金術を体験しよう」に挑戦。金を使ってナノ（10億分の1）の微粒子をつかって色を比較し、銅と亜鉛を使って金色のシャープペンシルの芯を作った。生物実験では菅沼教授の指導で「DNAの抽出」を体験。タマネギのDNAを取り

出して、遺伝子の構造を観察。最初は緊張気味だった生徒たちも、実験で物質が変化の様子や、普段は目に見えないDNAを目の当たりにすると、「スゴイ！」と目を輝かせていた。

実験の後は、物理学実験室や天文台を見学し、先輩“リケジョ”の学生たちとの質疑応答などもあり、中学生たちは講座アンケートに「今までにやったことのない実験で楽しかった」「好きな理科ができる理系に進学したい」「将来のことを先輩に聞いてすごく勉強になった」などと感想を寄せていた。



大学マネジメント研究会東海地区交流会(8/25)



8月25日(土)、名古屋駅前の名城大学名駅サテライトにおいて「グローバル化社会においてニーズを捉える大学改革」というテーマで大学マネジメント研究会東海地域交流会が行われました。研究会は、大学における経営の効率化及び教学改革に関わる先行事例・革新事例に関する情報交換を行い、これらに関する諸課題について会員が相互に協力して研究を行うことにより、大学のマネジメントを担う役員及び教職員の能力の向上を図り、大学に対する社会の負託により良く応えることを目的に設立された組織で、今回東海地区では初めての交流会を開催し、およそ100人が参加しました。

本間政雄大学マネジメント研究会会長の進行で、本学の松田正久学長があいさつし、小澤正俊中部生産性本部会長（大同特殊鋼株会長）による基調講演「これからの人づくり・これからの教育（明日を啓く）」の後、中根敏晴名城大学長、山本一良名古屋大学理事・副総長、白石薫二本学理事・事務局長によるパネルディスカッションが行われました。

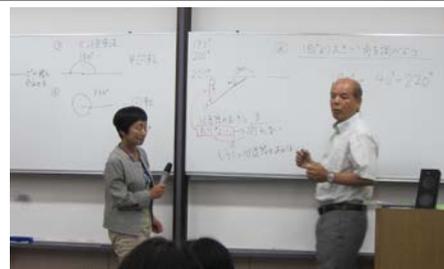


現在、大学は大転換期を迎えており、教員と職員が協力して10、20年後の日本のあるべき姿を本気で見据え、改革を進めなければならない状況にあり、この変化に対応できなければ生き残ることができないであろう、という主張が印象的でした。

(財務企画課 渡邊賢司)

公開講座「志水メソッドで算数・数学の授業が変わる」(8/25, 26)

8月25日(土)、26日(日)の2日間にわたって愛知教育大学公開講座「目からウロコ! 志水メソッドで算数・数学の授業が変わる」が本学で開催された。北は北海道、南は福岡まで15都道府県から103人の受講者、スタッフ10人を入れて、計113人の盛会となりました。今年は、10回目の開催で10年もできたことに感謝します。



○ (マル) 付け法、音声計算練習、模擬授業、研究発表など志水メソッドにかかわる理論と実践を語る場となりました。まじめな講話のなかに笑いあり、涙ありととても楽しいひとときでした。



た。

～受講者の声を紹介します～

・毎年参加させていただいて、そのたびに「目からウロコ」なのですが、今年は例年にも増して志水先生のパワーがみなぎっているのを感じました。楽しくて熱意あふれるお話から、びんびん伝わってきました。(千葉県 S先生)

・私が学んだ「目からウロコ」は、つながりの大切さです。

音声計算など、志水メソッドをきちんと実践していけば、中学校の学習につながっていくこと、教材研究で単元全体のつながりを考えて授業を組み立てるとよいことです。(愛知県 M先生)

(大学院教育実践研究科教授 志水廣)

お知らせ・報告・投稿

愛教大 23 年ぶりに全日本大学女子駅伝対校選手権大会(報告)

8月24日(金)に半田陸上競技場において行われた「第30回全日本大学女子駅伝対校選手権大会東海地区選考会」において愛教大は総合2位だったことにより、10月28日(日)に仙台市で行われる第30回全日本大学女子駅伝対校選手権大会への出場が決定しました。24年ぶり、5回目です。その模様は、日本テレビで、生中継されます。(陸上部顧問 筒井清次郎)

AUE サマースクール(報告)



7月23日(月)から27日(金)までの日程で、本学でサマースクール(夏季集中日本語研修基礎コース)が開催された。台北教育大学で児童英語教育を専攻する2人の学生が参加した。

本スクールは、北野浩章准教授(日本語教育)を主体教員として実施したもので、日本語の授業のほか、松田正久学長の講話や理科教育講座戸田茂准教授、音楽教育講座吉澤恭子准教授による日本の科学技術や文化に関する講義が

行われた。

また、博物館などで学習する日も設け、「八丁味噌の郷」「三河武士のやかた家康館」「岡崎城」「有松・鳴海絞会館」そして名古屋・栄と、日本や愛知の歴史と現在を感じることができるような学外研修となった。受講生たちは、現在、本学に留学している台湾の協定校の学生のサポートもあり、楽しい時間を過ごすことができたようである。

(日本語教育准教授 北野浩章)



愛知県陶磁資料館とパートナーシップ協定締結(お知らせ)

本学は愛知県陶磁資料館(瀬戸市)とパートナーシップ協定を締結しました。これは陶磁文化に親しみ、併せて関係事業に親しみを持ってもらうことを目的に同館から呼び掛けがあり、本学が応じたものです。この締結により、学生の皆さんは観覧料が無料になります。なお、展示室入り口で学生証を提示することが必要になりますのでご注意ください。

(教務課長 樋口眞二)

催しもの案内

◆愛知教育大学天文台第76回一般公開

9月8日(土) 18:00~20:30 入場無料, 申し込み不要

自然科学棟 天文台, 5階 538教室

18:00~19:00 天文ミニ講座「星の死ー超新星爆発と惑星状星雲ー」

講師: 澤武文教授

19:00~20:30 観望会「夏の星雲・星団観望会」 天体: リング星雲M57 など

19:00~ 3D宇宙の旅(複数回上映) *雨天時は講座と3Dは開催

問い合わせ: 天文学研究室 TEL 0566・26・2624

ホームページ <http://tenmon.phyas.aichi-edu.ac.jp/>

◆Unoセレクション vol.5 「現代アート 目からウロコ展 2012」

9月8日(土)~17日(月) 10:00~17:00 入場無料

刈谷駅前商店街「駅前ギャラリー スペースAqua」

現代アートのユニークなオブジェを展示。

9日(日) 14:00~16:00 トークショー「こんなアートありますか?」

講師: 加藤マンヤ講師(本学非常勤講師)

15日(土) 14:00~16:00 造形遊びワークショップ(小学生対象)

問い合わせ: 刈谷駅前商店街振興組合 TEL 0566・21・1109

◆世界の童話フェスティバル

9月15日(土) 13:30~15:30 入場無料

公益財団法人あすて(豊田市本町本竜43)

本学社会科3年の有志による国際交流イベント。世界の童話を紙芝居で上映し、ディスカッションを経て、劇を上演する。日本人、外国人が童話を通して、文化を考える。

問い合わせ: 代表 豊島さん E-mail:renard.by.fox@gmail.com

編集後記

この夏はロンドン五輪、オープンキャンパス、さらに猛暑も加わり熱(暑)く、長い夏でしたが、学内に目をやると、緑だった葉が黄色く色づき、青空にトンボが飛び交って、季節の移り変わりを感じます。学生たちは夏休みを、ボランティア、海外での教育実習、クラブ活動、大学祭や子どもまつりの準備...と、それぞれが思い思いに有意義に過ごしているようです。そんな若さに元気もらい(?)、夏バテの体も何とか回復。そろそろ大学ホームページのキャンパスの画像を秋バージョンに替えなければと、ナイスショットを求めて学内を歩く今日この頃です。(K)

投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール:kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp 編集責任者:総務担当理事 折出 健二